「御子の約束は永遠の命です」　　2025 年 12 月 04 日

偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくて、誰のことでしょうか。御父と御子を否定する者、これこそ反キリストです。御子を否定する者は皆、御父を持たず、御子を告白する者は、御父を持っているのです。初めから聞いたことが、あなたがたの内にとどまるようにしなさい。初めから聞いたことが、あなたがたの内にとどまるならば、あなたがたも御子と御父の内にとどまります。これこそ、御子が私たちと交わされた約束、永遠の命です。あなたがたを惑わす者たちについて、以上のことを書きました。あなたがたの内には、御子から注がれた油がとどまっているので、誰からも教えを受ける必要はありません。この油があなたがたにすべてのことを教えます。それは真理であって、偽りではありません。ですから、その油が教えたとおり、御子の内にとどまりなさい。(Ⅰヨハネ 2：22～27)

著者は、「偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくて、 誰のことでしょうか。御父と御子を否定する者、これこそ反キリストです」と言う。マルコ福音書 8 章 29 節に、「そこでイエスがお尋ねになった。『それでは、あなたがたは私を何者だと言うのか。』ペトロが答えた。『あなたは、メシアです。』」と記している。このペトロのキリスト告白が信仰の核心である。パウロは、ローマ書 10 章 9～10 節で、「口でイエスは主であると告白し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で告白して救われるのです」と書いている。キリスト教は、イエスを「キリスト」と信じ、告白する信仰である。他の誰かではなく、主イエスに聞き、主イエスに従うのである。著者は、御父と御子を否定する者は、反キリストであると断言している。いつの時代も反キリストは現れたが、「ヨハネ教団」の時代の反キリストは、主イエスの人性を否定し、理念的に捉えるグノーシス主義、仮現論であった。著者は、人となられた御子イエスを信じ、告白する者が、御父を持つと説く。「初めから聞いたことが、あなたがたの内にとどまるならば、あなたがたも御子と御父の内にとどまります。これこそ、御子が私たちと交わされた約束、永遠の命です。」初めから聞いたことを、心に留め、あなたがたの内にいつもあるならば、御子と御父の内にいることになる。主イエスが約束されたことは、主イエスと神との交わりに入ることによって「永遠の命」をいただくことである。ヨハネ福音書 17 章 3 節に「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」と書いている。「ヨハネ文書」では、「知る」は「信じる」「交わる」「留まる」を同義語として用いている。神から遣わされた主イエスを知る者は、真の神と交わり、永遠の命を受ける。この世にありながら、永遠と結びつき、「永遠の今」を生きる者とされる。主イエスが人となられたように、体を通して神の命をいただき、体を通して神の命を証しするのである。この具体的な愛に生きる信仰を「ヨハネ教団」は求め、勧めた。あなたがたを惑わせようとしている反キリストに陥らないように警告してきた。しかし、あなたがたの内には、御子イエスから注がれた油、すなわち聖霊がとどまっているから、誰からも教えを受ける必要はない。聖霊が万事について、真理を教えてくれる。聖霊による教えは真理であって、偽りではない。著者は、初めから教えられたとおり、主イエスをキリストと信じ、御子イエスの内にとどまり、永遠の命に与る祝福を受けなさいと勧めている。